



## L-ISA は、ARTECHOUSE NYC のユリウス・ホルストハウスの作品『Geometric Properties』のイマーシブ イメージを完璧に補完



写真提供元：Artehouse NYC © Max Rykov

See Factor 社から供給された L-ISA テクノロジーの最初の固定式アートギャラリーの設置は、新しいエキシビジョンでアーティストと観客を同様に満足させるサウンドを提供し続けています。

### 2021年5月

ARTECHOUSE NYC は、チェルシーマーケットの地下にある以前は使用されていなかったボイラールームにある、ニューヨークで最もユニークなアートのスポットの一つです。ARTECHOUSE は、100 年前に設立されたにもかかわらず、デジタル時代の芸術団体としての地位を確立しています。ここでは、イマーシブでインタラクティブなアート展示を行う革新的なスペースで、新しい技術や新しい形の創造的表現を試みる、ジャンルを超えるアーティストたちに、最先端のプラットフォームを提供することを目的としています。

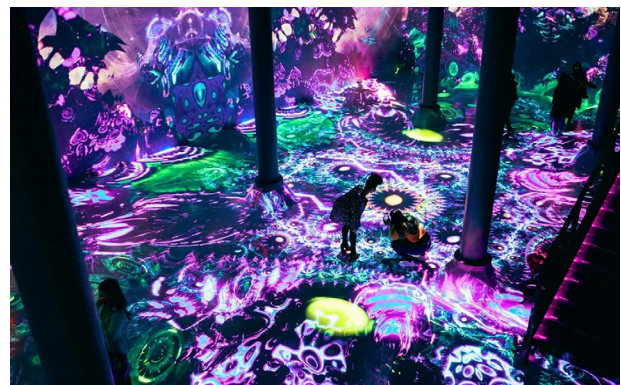
2021年9月まで開催される『Geometric Properties』は、その典型的な実例です。オランダ人アーティスト、ユリウス・ホルストハウス (Julius Horsthuis) 氏が制作したフラクタルなビジュアルに、マイケル・スターンズ (Michael Stearns) 氏とデヴィッド・レヴィ (David Levy) 氏のオリジナルサウンドトラックを加えたこのギャラリーの最新展示は、30分の間、目を見張るような環境を作り出しています。アーティストのウェブサイトによると、「実存的な自己反省を刺激し、存在することの純粋な驚きを強調するために、基本的な数学的パターンを探求する」とのことです。

しかし、ARTECHOUSE NYC をユニークにし、アーティストが創造性を新たなレベルに押し上げることを可能にしているのは、L-Acoustics の L-ISA イマーシブ ハイパーリアル サウンドテクノロジーの導入です。2019年9月のグランドオープンに向けて設計され、メインギャラリーに設置された L-ISA は、アーティストがキャンバスを視覚から聴覚へと広げることを可能にします。

ARTECHOUSE のエグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクターであるリキ・キム (Riki Kim) 氏は、「今回は ARTECHOUSE にとって 3 番目の会場であり、体験のベンチマークを押し上げるものにしたかったのです。」と述べます。「オーディオの要素を検討していたとき、L-Acoustics と L-ISA は

競合製品の中で際立っていました。その魅力は、部屋の中に『ホットスポット』がないイマーシブのサウンドシステムであったこと、さらにアートの幅広い音色や感情を表現できるクリアで透明感のあるサウンドであったことでした。しかし、製品だけではなく、L-Acoustics の人々が、芸術のパートナーとしてどのようにアプローチしてくるのかも重要でした。L-Acoustics では、人間関係と製品が完全なパッケージとなっています。」

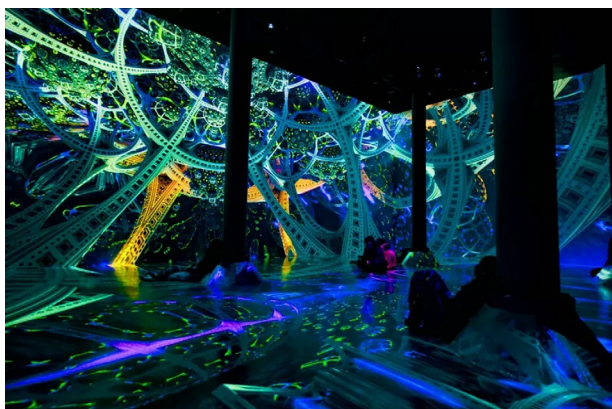
クイーンズに本社を置く See Factor 社は、ARTECHOUSE NYC に 31 チャンネルのサウンドシステムを供給しました。このシステムは、パリメーター / アウタースピーカーとして使用される 20 台の L-Acoustics X8 スピーカーと、オーバーヘッド / インナースピーカーとして使用される 10 台の 5XT スピーカー、そしてシングルモノチャンネルとして機能する 2 台の SB15m サブウーハーで構成されています。サウンドシステム全体は、6 台の LA4X A





ンプリファイド・コントローラーでドライブされ、L-ISA プロセッサを介してイマージブミックスを実行しています。このサウンド技術に加えて、Barco社製の16K解像度、150メガピクセルのラスター・レーザー・プロジェクション・システムが採用されています。

例えば、ARTECHOUSE NYCの1番目のインスタレーションであるレフィク・アナドル (Refik Anadol) 氏の『Machine Hallucination』のサウンドデザインを担当したベルリン在住の作曲家ケリム・カラオグル (Kerim Karaoglu) 氏とサウンドエンジニアたちは、L-ISA Source Control プラグインを用いて Logic Pro でインスタレーションの音楽をイマージブ環境に割り当てています。プロセッサからの出力はマルチトラックファイルにレンダリングされ、会場のメディアサーバーで映像と音声再生されます。コンピューターからの MADI は、RME M32 Pro を介してアナログに変換され、LA4X アンプリファイド・コントローラーに供給されます。事実上、L-ISA はショーのミキシング中の芸術的プロセスの延長線上にあり、アーティストがライブやレコーディング作品に新しい多次元のサウンド体験を創造し、提供することを可能にしています。

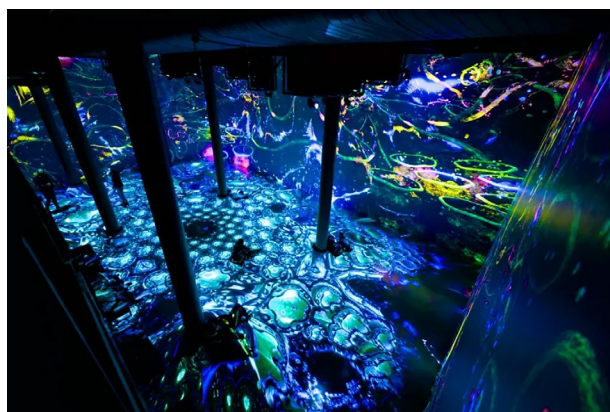


「ARTECHOUSE は、さまざまな面で非常に充実したプロジェクトでした。」と、インスタレーションのデザインとエンジニアリングを行ったサウンド・デザイナーのジェシー・スティーブズ (Jesse Stevens) 氏は述べます。スティーブズ氏は、キムさんとARTECHOUSE チームと協力して、プロジェクトエリアにスピーカーを置けないなどの設計上の制約の中で、最大限の解像度が得られるシステムを開発しました。「私たちは、通常のエンジニアリングの目でシステムを考えるだけでなく、クリエイティブな視点でシステムを考えることが求められました。どんな芸術的なアイデアにも適応し、さらにはアーティストの作品の延長線上にあるものでなければならなかったのです。」スティーブズ氏は『Machine Hallucination』のサウンドミックスを担当しましたが、ケリム・カラオグルの豊かで美しい音楽に関わったことは「夢のようなこと」だったと述べています。

『Geometric Properties』は、作曲家マイケル・スターズとデヴィッド・レヴィの対照的なスコアによって2つの異なるエリアに分けられたユニークなインスタレーションだったとスティーブズ氏は説明します。「L-ISAの技術を最大限に活用して、両方のスコアのライブミックスを行い、それぞれの作品にサウンドエフェクトを追加するように言われました。ミキシングの面でも、サウンドデザインやエフェクトの面でも、かなりの作業が必要でした。」

レヴィ氏のスコアが最初に出てきますが、スティーブズ氏はこれをアクション映画の予告編に例えています。「映画的な要素が多く、非常にダイナミックです。デヴィッドさんはゲーム業界の作曲家なので、そのスコアには非常に激しい打撃音、サウンド、ヒューという音、衝突音や、多くのダイナミクスがあります。文字通り、このような空間でミックスを行うには、L-ISAを使うしかありませんでした。この非常に複雑なスコアとすべての要素を分離して、部屋のさまざまな場所に配置する必要があったからです。また、視聴者が部屋のどこに立っているかによってユニークなミックスが得られるように、エレメント間の相互作用を開発しなければなりませんでした。」

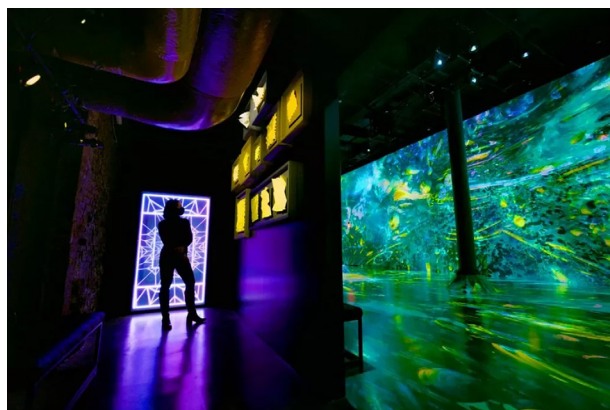
さらにスティーブズ氏は、観客が常に空間内を歩き回り、どこからでも映像と音響を楽しむために、ミックスはあらゆる角度から検討する必要があります。



あったと付け加えます。「エレメント間の相互作用を生み出し、作品のダイナミクスに働きかけるような、非常に特殊なオブジェクトの配置がたくさんあります。しかし、私たちは一歩下がって、オーディオの視点が空間の視覚の視点と一致することを確認する必要がありました。それができるのは、L-ISAテクノロジーだけです。」

マイケル・スターズのスコアは、スティーブズ氏が「より落ち着いた、よりアンビエントなもの」と表現するもので、サウンド・エフェクトとサウンドデザインが組み合わされています。「前半のアドレナリン全開の後、観客が少し休憩できるのは素晴らしいことでしたが、それでもトーンとエネルギーを一致させたかったのです。ホームスタジオでサウンドエフェクトや音楽ミキシングのデザインとプレビューを行い、スターズさん、ホルストハウスさん、キムさんに送って、協力してもらいました。スターズさんの音楽には多くのエフェクトが使われているので、映像と同期させるために細かい編集が必要でした。エフェクトの動きが立体感と興奮を与えるので、ビジュアルと完璧に連携させることが重要でした。L-ISAのおかげで、これらの要素を正確に配置することができました。」

スティーブズ氏は、L-ISAがプロセスにおけるクリエイティブなパートナーとなったと評価している。「本当にユニークなのは、L-ISAの技術自体が信じられないほど直感的であるということです。例えば、私はすべてのオーディオを Pro Tools システムで再生し、配置や動きのオートメーションを Pro Tools で記録しました。それを L-ISA Controller でコントロールし、一つ一つのエレメントを聴きながら、その位置や軌跡をリアルタイムに記録していきました。オートメーションを録音しながらエレメントをレイヤー化できるので、自由に反復することができます。これは、この高密度で大規模なミックスに取り組む唯一の方法であり、非常に重要なことでした。それは、ユニークなプロセスです。」



L-ISAテクノロジーの影響は、アーティストと会場やインスタレーションを訪れる人々の両方の満足度に表れているとキム氏は付け加えます。「彼らはいつも言葉にすることはできませんが、誰もが直感的にそれを体験しています。」と彼女は述べます。「それに、作曲家やサウンドデザイナーは、L-ISAが使えることを聞いていつもワクワクしています。関係者全員にとってそれは大きな違いであることを認識させてくれます。」